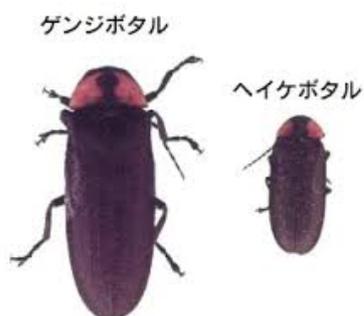


## ヘイケボタル

炭焼きを兼ねたホタル観察会は 2007 年から始めました。今年で 8 回目になります。2014 年 7 月 30 日。一端帰宅してから日暮れを待って息子の嫁と 8 歳女子、3 歳男子の 2 人の孫たちをつれてホタル観察会に参加しました。われわれのすぐ後から佐野さんがお友達と二人で参加しましたので、俄然賑やかになりました。ホタルは今年も健在でした。最初は最上流のリヤカー橋にゆきましたが、時間が早かったのかホタルはぼつり、ぼつりと少ないのです。場所を変えてキャリコ橋に移動しました。いました、いました。例年同様に淡い光を点滅させながら、あたりを飛びまわってくれました。近づいたホタルを素手で 3 匹捕まえました。蓋つきビンに入れて子供たちに明るい所で本体を観察させたいので、敢えて捕獲しました。上の写真は掴まえた内の 1 匹で、画像には 2014 年 7 月 30 日 20 時 9 分と記録されました。



澄川のホタルは小粒な感じがしますが去年ヘイケボタルであることを専門家に確認してもらいました。2006 年 6 月 2 日に偶然沢にカワニナが棲んでいるのを確認しまして、ホタルがいるにちがいないと思い、同年 8 月 5 日に確認してから、翌年の炭焼きで火の番を夜半までするので、ついでにホタル観察会を始めたわけです。沢に 4 箇所も橋をかけたのもホタルの生息環境を乱さないように、との配慮からでした。分布は日本全土の他に韓国、東シベリアまでかなり広いようです。



ホタルといえば光が強くて大きいゲンジボタルが代表のようですが、分布は圧倒的にヘイケの方が優勢なのです。大きさの比較ではゲンジがヘイケを圧倒しますが、ゲンジは北海道にはいませんし、清流でしか棲息できないので、場所も限定されます。

筆者愛用の図鑑「札幌の昆虫」にはホタル科として 3 種類が記載されています。そのうち光るのはヘイケだけです。日本産ほたるは 10 種類もいるようですが、光るのはゲンジ、ヘイケと

ヒメボタルの 3 種類のみです。

以前テレビで熱帯アジアのどこかの島で 1 本の大木に集まってシンクロ的に明滅するホタルの光の競演ともいべき光景を観たことがあります。半端でない豪勢な光でした。ホタルの仲間も色々ですが、光る目的は共通していて、ただ結婚相手と結ばれるためだけなのです。ヘイケの場合、飛び回るのはみで、草葉の陰で「ここにいるよ」と光で報せてくれる♀を探しているのです。

基地に戻り、佐野さん差し入れのスイカをご馳走になりました。児童が混じると座が賑わい、和みます。復路の車の中でも、ガラスビンの中で光ってくれる 3 匹のホタルが孫たちを楽しませてくれていました。